

■かつて「世界最大の発行部数」を誇った高級紙を創刊号からデジタル化

デイリー・テレグラフ デジタル・アーカイブ

The Telegraph

Historical Archive 1855-2021

**英国の EU 離脱(Brexit)賛成の立場のデイリー・テレグラフの
創刊号からのデジタル・アーカイブが収録年数を 2021 年まで延長**

The Telegraph Historical Archive, 1855-2016 は、かつて世界で最も売れていた新聞である The Telegraph の、全文検索可能なデジタル・アーカイブです。1855 年の創刊から 2021 年までの (1961 年に創刊されたサンデー・テレグラフを含む) バックファイルを収録しています。これにより、過去 165 年間にわたる日常生活を垣間見ることができます。本アーカイブはビジネス、芸術、国際関係、科学、哲学といった多様な分野にまたがる研究に有用であり、19 世紀後半からのすべての大きな出来事をカバーしています。

2016 年 6 月には世界が注目する英国の EU 離脱 (Brexit) に関する国民投票が行われ、投票者の 51.9% が EU 離脱を選択しましたが、同紙は国民投票において離脱賛成の立場を取りました。なお、離脱派の中心人物であり、その後首相に就任したボリス・ジョンソンはデイリー・テレグラフの出身です。

今回 **2017-2021 年分の収録が追加** されました。国民投票の選択後から 2020 年 1 月末の EU 離脱までを賛成の立場から報道しています。



GALE PRIMARY SOURCES
The Telegraph Historical Archive, 1855-2021

Search...

Advanced Search

<英国の EU 離脱後の 2021 年まで収録が延長されました>

IP アドレス接続/同時アクセス無制限 価格表	FTE<5,000	5,001-15,000	15,001-30,000	30,001+
The Telegraph Historical Archive 1855-2021 買い切り	価格は弊社までお問い合わせください			
Hosting Fee 年間管理費				

※バックアップ用 HDD は別売りです。

※正式な見積価格は最寄りの弊社営業員に別途ご用命ください。

無料トライアル実施中!! 詳細は弊社までお申し付けください

日本指定代理店 **極東書店**



FAR EASTERN BOOKSELLERS
KYOKUTO SHOTEN LTD

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル
〒600-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

03(3265)7531 FAX (3556)3761
075(353)2093 FAX (353)2096
092(751)6956 FAX (741)0821

URL: <https://www.kyokuto-bk.co.jp>

E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp

The Telegraph とその歴史

デイリー・テレグラフは、印紙税が廃止された 1855 年創刊されました。印紙税廃止後に発刊が続いた安価な新聞はペニー新聞と呼ばれましたが、デイリー・テレグラフはペニー新聞を代表する新聞です。テレグラフの低価格路線は広範囲の社会階層に新聞をもたらし、創刊 10 年後には、新聞界の巨人タイムズを発行部数で追い抜き、その後は世紀末に大衆紙デイリー・メールが創刊されるまで、自他共に認める発行部数最大の新聞とし

て、一時代を築きました。20 世紀に入ると、大衆紙との競争に晒されたテレグラフは一時的に低迷しますが、1937 年に 1772 年創刊のモーニング・ポストを買収、第二次大戦前夜、チャーチル入閣を支持した時、発行部数を急増させます。以後、現在に至るまでイギリス高級紙では最大の発行部数を維持しています。

1908 年にはドイツ皇帝ヴィルヘルム 2 世のインタビューが物議を醸しました。これが後に言う **デイリー・テレグラフ事件** です。また、1934 年 7 月には「長いナイフの夜」を報道したことで、ドイツにおいて 20 日間発禁処分を受けました。1947 年 4 月には初めて発行部数が 100 万部を越えました。1994 年には、イギリスに日刊紙としては初のウェブサイト「The Electronic Telegraph」が立ち上がりました。

The Telegraph は報道の歴史家から、「1855 年の印紙税の廃止に続いて現れ、The Daily Mail の大衆市場向けジャーナリズムへの第一歩を示すジャーナリズムの新時代の始まり」とみなされています。

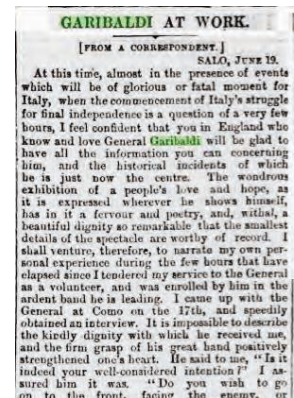


The Telegraph に関連した著名な記者・事件

ジャーナリズム界の寵児ジョージ・サラ (George Augustus Sala, 1828 - 95)

後発の新聞としてイギリス新聞市場を勝ち抜くため、テレグラフは低価格路線だけでなく、内容面でも新しい試みを実践する必要がありました。19 世紀においてそれを体現した人物がジョージ・オーガスタス・サラです。

当時もっとも有名なジャーナリストの一人であったサラは、ロシア、北アフリカ、オーストラリア、メキシコといった世界各地を飛び回り、リンカーン、ナポレオン 3 世、ガリバルディといった時の人へのインタビューを果敢に試み、その独特の文体とともに、テレグラフの看板記者としての名声を得ただけでなく、ジャーナリズムの新境地を切り開きました。インタビュー記事の導入、ヘッドラインの多用、読者を意識したリーダー的な文体等の特徴は、保守的な文人マシュー・アーノルドから「ニュー・ジャーナリズム」の名の下に批判されますが、これらの要素は、その後のデイリー・メールらの大衆紙の試みを先取りしたものでした。



ガリバルディへのインタビュー記事
(26 June 1866)

The Daily Telegraph/Kaiser Wilhelm affair

(デイリー・テレグラフ事件)

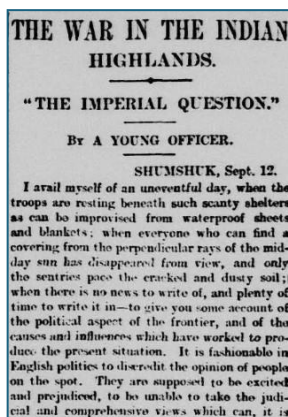
1908 年、Daily Telegraph はドイツ皇帝ヴィルヘルム 2 世のインタビューを掲載しました。そこではヴィルヘルム 2 世の無検閲のコメントが全て公開されてしまい、結果としてイギリス、フランス、ロシア、日本の怒りを招きました。



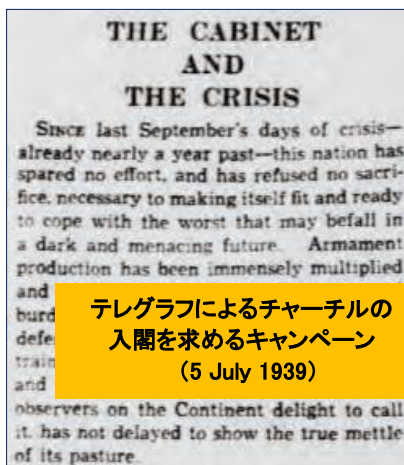
デイリー・テレグラフ事件の発端となったインタビュー記事
(28 October 1908)

チャーチルとの半世紀以上に及ぶ関係

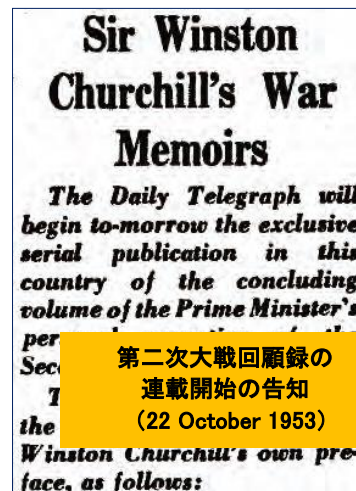
デイリー・テレグラフの歴史の中で、最も深い関わりを持った人物を挙げるとすれば、おそらくウィンストン・チャーチルでしょう。両者の関係は、チャーチルがまだ無名の 20 代の頃、インド北西部の英軍軍事作戦に青年将校として従軍して記事を寄稿して以来、半世紀以上にも及びました（1937 年に買収したモーニング・ポストもチャーチルが寄稿した新聞です）。中でも、第二次大戦前夜、ヒトラーに対するチェンバレン内閣の融和政策にチャーチルが反対の声を挙げたとき、テレグラフはいち早く支持を表明、チャーチル首相就任のための世論を喚起しました。ジャーナリストチャーチルを世に送り出し、政治家チャーチルを側面から支援テレグラフは、チャーチル一人だけでなく、チャーチルが体现した政治理念やチャーチルを支持した社会階層を考察する際に格好の資料です。



従軍記者チャーチルによる
インドの戦争報告
(6 November 1897)

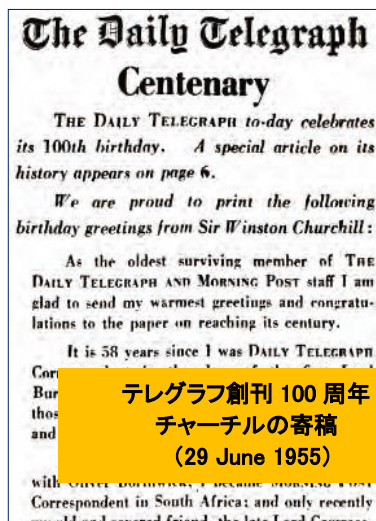


テレグラフによるチャーチルの
入閣を求めるキャンペーン
(5 July 1939)

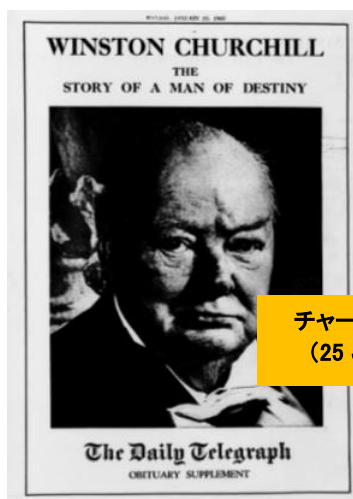


第二次大戦回顧録の
連載開始の告知
(22 October 1953)

Saluting to the political officer in the opposite tent.



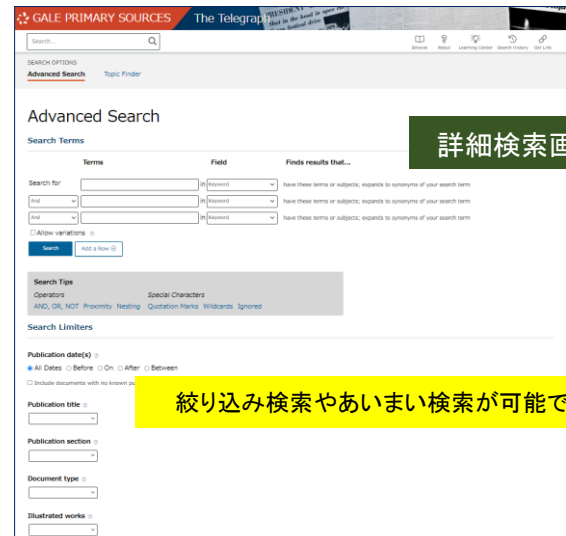
テレグラフ創刊 100 周年
チャーチルの寄稿
(29 June 1955)



チャーチル追悼特集
(25 January 1965)



文献調査をサポートする最先端のツールを搭載したプラットフォーム



Browse By Date

発行日ごとのブラウズ画面
Click the thumbnail to see the issue



The Telegraph Historical Archive の詳細お問い合わせは弊社まで



株式会社 極東書店

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル

TEL: 03-3265-7531 FAX: 03-3556-3761 https://www.kyokuto-bk.co.jp E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp